



国際理解講演会②

10月23日(水)6限、全校生徒を対象に、新潟県青年海外協力協会会長 渡部 悟様より「海外協力活動における課題解決」をテーマに国際理解講演会をしていただきました。



【講演会の内容】

- ・海外からの依頼による日本の技術協力の例
課題：ラオスのメコン川の浸食
解決：日本のODAによる「粗朶沈床」の活用
結果：日本（新潟）の技術のラオス人への伝承・交流
- ・国際協力の身近な課題：入管法改正に伴う外国人技術者の流入とその問題に対する対応
- ・海外協力隊に参加するきっかけと工学技術者としての世界への貢献

【生徒の感想スキルアップシートより】

- ・言葉の壁がありながらも、海外へ赴き支援する姿勢が素晴らしいと思いました。
- ・粗朶沈床が新潟でしか使われてなく、身近なやすらぎ堤で使われていることを知り、とても興味がわきました。
- ・まだ発展していない国のために協力できる会社があると知ったので、私もいつか海外の人のために手助けをしたい。
- ・どんどん日本もグローバル化していき、職場にも外国人が増え、学校にも外国人がたくさん来るようになる。その仲間たちとうまく関わっていくためにも、英語の力をつけるよう意識したいと思った。
- ・自分は海外について興味もなく、何も考えていなかったが、日本の技術を利用し、海外の途上国に役立たせ、川などを直せると知って、今後就職して他国の人に技術を伝える機会などがあつたら、積極的に取り組んでいきたい。
- ・完璧に英語をしゃべれなくても、コミュニケーションはとれるということが改めて分かった。工業生が社会で活躍するには、技術をしっかりと身につけることが重要になることを教えてもらった。
- ・外国と協力して技術を共有することによって、とてもいい関係を作ることができるということがとても印象に残りました。将来は外国の人とも仲良く仕事をしたいと思いました。
- ・新潟にしかない技術でも、世界のどこかには求める人がいるということが分かった。今はこの暮らしが当たり前になっているけど、だからこそ他の国のことにも目を向けて、役立つ開発をしていきたいと思った。
- ・国際協力をするということは、私たちが平和に生活するのにかかせないとても大事なことだということが分かった。
- ・外国の人たちは高度な技術を得るために日本で学んでいることが分かった。就職先でだれにもまけないくらい努力をして、高度な技術を身につけたい。

【職員の感想】 身近なところで使われている技術が海外で人々の役に立っていると知り、技術の習得や技術を通した海外貢献への意欲が高まったように感じられます。